

地域に寄り添い 発展目指す

SDGs 正和会チャレンジ2030



県内で医療・福祉サービスを展開する正和会グループ(本部潟上市)は、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けて、「SDGs正和会チャレンジ2030」を実施しています。健康・福祉の充実やクリーンエネルギーの導入など国連の目標を基に、独自に17の目標を掲げて10年後の達成を目指します。患者さんや施設利用者の方のみならず地域に寄り添う活動は昨年始まり、早くも成果が現れています。目標に向かって活動する8グループのリーダーにそれぞれの取り組みを聞きました。

大電や強風により県内で停電が相次いだ1月7日夜、正和会グループの五つの医療・介護施設も停電に見舞われました。このうち秋田市の「地域密着型介護老人福祉施設・ケアコンプレックス寺内」と「看護小規模多機能型居宅介護・ケアコンプレックス將軍野」では、介護や医療のケアを受けながら暮らしやすさを追求する高効率のLED照明に切り替え、灯油ストーブで寒さをしのぎました。

翌8日、正和会本部は近隣の「ケアコンプレックス高清水訪問看護ステーション」にある電気自動車(EV)をケアコンプレックス寺内に派遣。夕方停電が復旧するまで、EVから建物に電気を供給し、ファンヒーターを併用できるようにしました。一方、ケアコンプレックス將軍野では、災害連携協定を結ぶ羽後日産モーターから借りたEVを電源にして、炊飯などの食事の準備が行われました。EVの導入と災害協定の締結は昨年、SDGsチャレンジの一環として実施しました。国連が掲げるSDGsの17の目標のうち「エネルギーをみんなに」そして「クリーン



停電した施設に電気を供給するEV
11月8日、秋田市のケアコン寺内



リーダーらがリモートで開催したSDGs会議=昨年12月3日

小玉敏央理事長メッセージ

「自分たちの組織は世の中に有用な組織であってほしい。そして、今更には、SDGsの目標を達成できた時の喜びを知ってほしい」と願っています。ほとんど全ての職員は、

正和会は、法人のローガンである「利用者のため」に、地域のために「自己のために」に沿って年度目標を立てています。本年度の目標は「社会貢献に力を入れよう」です。SDGsは17の目標があり、169のターゲットに細分化されています。これに沿って、私たちの目標を具現化できると考えました。正和会は1994年の設立以降、急速に規模を拡大してきました。経営陣は途中入社が多く、その方たちもそろそろ定年を迎えます。世代交代の時期に、次

持続可能な組織をつくる

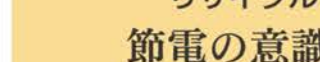
「自分たちの組織は世の中に有用な組織であってほしい」と願っています。ほとんど全ての職員は、

世代で中心になる生え抜きの人材を見極めたいという思いがありました。そこで社内報に、SDGsをそれぞれの研修会に参加する記事掲載しました。おかげさまで50人以上の職員の参加を得ることができました。オンライン会議の中で有用な提言をした職員を、その内容に沿ってグループ分けし、リーダーに指名してもらいました。秋元課長は、「医療介護のIoT化」「地域支援・交流」「国際援助」「基金」など8項目を選定。有志がチームに分かれ、具体的な取り組みを提案するまでに

「SDGsを知っている」「SDGsチャレンジは昨年5月、小玉敏央理事長(68)が秋田県環境整備課長(49)に、こんな一言を投げかけたのを機にスタートしました。SDGsについて調べた秋元課長は、地域に根ざした医療・福祉サービスの提供、職員研修の充実という日常業務が、国連の掲げる目標に合致していると感じました。SDGsが職員一人一人の力量アップやグループ内の事業所のサービス向上につながることを期待した秋元課長は、6月の社内報でSDGsの実践に関心のある職員を募集しました。10年後の地球と私たちの地域を守るための国連からのメッセージがSDGsのなかに受け止められたと振り返ります。

主な受賞・認定

- ▷秋田県介護サービス事業所認証評価制度
- ▷健康経営優良法人2020中小規模法人部門
- ▷秋田県健康経営優良法人
- ▷2017年・秋田県女性の活躍推進企業表彰
- ▷ケアホーム木精=2009年・バリアフリー推進賞
- ▷ショートステイ啄木鳥(きつつき)=2012年・木材利用優良施設コンクール・林野庁長官表彰



林野庁長官表彰を受けたショートステイ啄木鳥

「SDGsチャレンジは昨年5月、小玉敏央理事長(68)が秋田県環境整備課長(49)に、こんな一言を投げかけたのを機にスタートしました。SDGsについて調べた秋元課長は、地域に根ざした医療・福祉サービスの提供、職員研修の充実という日常業務が、国連の掲げる目標に合致していると感じました。SDGsが職員一人一人の力量アップやグループ内の事業所のサービス向上につながることを期待した秋元課長は、6月の社内報でSDGsの実践に関心のある職員を募集しました。10年後の地球と私たちの地域を守るための国連からのメッセージがSDGsのなかに受け止められたと振り返ります。

「SDGsチャレンジは昨年5月、小玉敏央理事長(68)が秋田県環境整備課長(49)に、こんな一言を投げかけたのを機にスタートしました。SDGsについて調べた秋元課長は、地域に根ざした医療・福祉サービスの提供、職員研修の充実という日常業務が、国連の掲げる目標に合致していると感じました。SDGsが職員一人一人の力量アップやグループ内の事業所のサービス向上につながることを期待した秋元課長は、6月の社内報でSDGsの実践に関心のある職員を募集しました。10年後の地球と私たちの地域を守るための国連からのメッセージがSDGsのなかに受け止められたと振り返ります。

リサイクル・経費削減 節電の意識向上を図る

ケアコンプレックス湯上このとりの介護科・七尾健チーフ(39) 省エネと温室効果ガス削減を目指し、全施設で発光ダイオード(LED)照明への切り替えを進めています。LEDの導入率は施設により異なりますが、2年後に全て切り替える計画です。節電マニュアルの作成など、節電を継続的に管理する仕組みづくりも進めます。ごみ削減については、生ごみを減らす活動から始めることにしました。コンポスト化を進めて、生ごみを堆肥を作り、園芸作業に活用。ほかに、使用済みの切手や書き損じはがきの寄付活動も計画です。節電やコンポスト導入の効果に関する数値は職員全体で共有し、経費削減の意識向上を図ることが大切だと考えています。

- ・エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ・つくる責任 つかう責任

職員資格取得促進 特定業務の人材育成

ケアコンプレックス大瀧ひだまり苑・鈴木本施設長 現在は5人の30人に増やす目標を掲げています。資格取得は職員にとって、一つのゴールであり、その後の可能性を広げる出発点でもあります。たくさんのスタートを応援する体制づくりを広げたい。全職員をどう巻き込んでいくか、知恵を絞っていきます。

- ・働きがいも経済成長も
- ・平和と公正をすべての人に

業務合理化・情報共有化 職場選択行いやすく

ほのほの苑・富山千代仁事務主任(34) 少子高齢化により地域で働く若者が減っていますが、正和会グループが働く場所として選ばれ、発展することが地域のためだと考えています。業務の合理化や情報共有化は、より働きやすい職場をつくる上で重要です。正和会グループは運営する施設の種類が多様で、職員が働く場所や働き方を選ぶことが魅力の一つ。職員が各施設について知り、職場選択を行いやすくなる仕組みづくりに取り組むことにしました。職員用ホームページを作成し、スマホなどで各施設の活動や社内制度を閲覧できるようにしました。研修など教育制度に関する情報を手軽に知ることができれば、キャリアアップの道筋を描きやすくなります。

- ・質の高い教育をみんなに
- ・働きがいも経済成長も

職員教育実践 学びの場充実させる

南秋田整形外科医院・藤原隆幸事務長(49) 職員に教育・研修の場を提供する取り組みを展開しています。女性管理職の増員や、離職率が低く働きやすい職場づくりも目標です。学びの先を求めるものは昇給、昇進、自己研鑽など人により異なります。職員にアンケートを実施し、どの研修会や勉強会に興味があるかを把握して多様な実務研修やウェブセミナーを企画します。私自身、さまざまな勉強会を通じて成長した職員たちを見てきました。一方で「勉強方法が分からない」「職員もおり、誰も参加できない学びの場を充実させたい」と考えています。公正な評価による昇進制度の整備も提案したいです。職員の頑張りが評価される職場づくりが、生産性向上や雇用維持につながると思います。

- ・質の高い教育をみんなに
- ・ジェンダー平等を実現しよう

クリーンエネルギー導入 EV10台購入を計画

本部総務課・柴崎達徳チーフ(33) 福祉車両を除く社用車を電気自動車(EV)に切り替える計画を立てています。2025年までに5台、30年までに計10台の導入を目指しています。現在73台ある社用車の約15%がEVに切り替わることとなります。充電設備や施設に電気を送る給電器の整備も進めます。昨年10月に1台目の導入が実現。この車両購入を機に、11月には羽後日産モーターと正和会グループが災害連携協定を結ぶことになりました。災害が発生したとき、羽後日産モーターから電気自動車と給電器を借りて施設や周辺地域に電力供給を行う協定です。ケアコンプレックス高清水の敷地内にある井戸の活用も検討中です。今春には、くみ上げポンプと、ろ過装置を井戸に設置する予定です。

- ・気候変動に具体的な対策を
- ・安全な水とトイレを世界中に

国際援助・基金 募金通じ途上国支援

五十嵐記念病院介護科・八槻英翔チーフ(61) 正和会グループでは、2016年からフィリピン、インドネシア、カンボジアの方々を雇用しています。将来、介護技術などを母国に持ち帰ってもらい、技術移転を実現していきます。海外への介護機材の贈呈や講師派遣により、日本の介護スタイルを伝えていきます。その一歩として、4月から全施設に募金箱を設け、お金や物資を途上国に送る活動を始めます。海外援助は個人的にも思い入れがあります。私は正和会でも働きながら、ラグビー選手として秋田ノーザンブレッツで活動していました。外国人選手たちは文化や言語、人種の違いによる偏見や誤解を感じていると話してくれました。海外援助は、こうした偏見の解消につながると思っています。

- ・貧困をなくそう
- ・飢餓をゼロに

地域支援 水害復旧チーム設立

ケアホーム木精・シヨトステイ介護科・鍋島隆志(45) 浸水した住宅や施設の泥だし、清掃がれき搬送などを担います。今年3月のチーム発足を目標として支援する。今年3月のチーム発足を目標として支援する。今年3月のチーム発足を目標として支援する。

- ・人や国の不平等をなくそう
- ・住み続けられるまちづくりを

医療介護 新技術の導入を推進

湖東老健・加藤隆副事務長(45) 正和会グループは見守りセンサーや電子記録アプリといったIoT(情報通信技術)を導入しています。これらの機器をセンサーネットワークでつなぐIoTを活用し、新しい技術の導入に挑戦していきたいと考えています。

- ・産業と技術革新の基盤をつくろう
- ・パートナーシップで目標を達成しよう

正和会グループ

- ▷業種=医療、福祉
- ▷創立=1994年8月
- ▷資本金=4千万円
- ▷従業員数=740人(男性222人、女性518人)
- ▷代表者=小玉敏央理事長
- ▷本部=〒018-1401潟上市昭和久保字街
- ▷道下92の1
- ▷事業所=潟上市、秋田市、五城目町、鹿市、大瀧村
- ▷URL=http://www.seiwakai-net.com
- ▷従業員の平均年齢44.6歳

SDGs 持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals

17項目の「ゴール」

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう

エスティー・ジーズ SDGsとは? SDGsは、持続可能な世界を実現するため、国連が2030年に向けて掲げた国際的な行動目標です。「Sustainable Development Goals」の頭文字をとってSDGsと表記され、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。17項目の「ゴール」と、さらに詳細な169の「ターゲット」が設定され、2030年の達成を目指しています。この行動目標は2015年の国連サミットで、全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。世界全体の環境、経済、社会は密接に結び付いており、気候変動、自然災害、感染症といった地球規模の課題が、経済成長や貧困、格差などの社会問題に影響を及ぼしています。世界中の人々が将来にわたって幸せに暮らすために、国際社会全体の取り組みが求められています。国連は「誰一人取り残さない」ということをSDGsの理念に掲げ、世界中の人々に行動することを呼びかけています。日本でも政府や地方自治体、企業、市民団体などが、SDGsの達成に向けて、さまざまな取り組みを展開しています。

秋田新聞社はSDGsの取り組みを応援しています。